

D2630 郡上長良川ロータリークラブ

よいことのために

手を取りあおう

RI会長メッセージ

2025.7~2026.6 会長：佐藤備子 副会長：大村太郎 幹事：清水英志

第48期クラブメッセージ

「輪と和」 輪を広げよう 和やかに

例会日：毎週水曜日 18：30~（6-9月末 19：00~）
 例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F
 TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191
 E-mail：gsrc@abelia.ocn.ne.jp
 発行：クラブ会報委員会

第2227回 令和8年3月25日(水)

本日の行事 PEELS(会長エレクトローニングセミナー)報告

2025-26年度

佐藤備子会長

・インターアクト教師部会の案内

幹事報告

清水英志幹事

* 米山奨学会よりハイライトよねやま 312号

* ガバナー事務所より

* 長良川環境レンジャー協会より

・ 第2回クラブサポート・ミーティング案内

令和8年度河原活動開始式の案内

・ 日本事務局経理室より 2026-27年度

* 例会変更 関、美濃、可児 RC

人頭分担金について 年額1人 85.5\$

* 週報拝受 関 RC

第2226例会報告

■会長挨拶

2025-26年度 佐藤備子会長

皆さんこんばんは。本日は大和例会という事で段取りをしていただきありがとうございます。そして本日は、長良川カンパニーの岡野春樹さんにお越しいただいております。どうぞよろしくお願い致します。まずは3月11日です。東日本大震災から、ちょうど15年が経ちました。全国SSネットの仲間で、岩手県大船渡市でガソリンスタンドを営んでいる方がおられます。たまたま席が隣になって話をする機会があり、地震の直後はお母様と一緒にいられたそうですが、何かを取りに一度ご自宅へ戻られ、そのまま津波にさらわれて行方が分からなくなったと、ご本人から直接伺い、大きな衝撃を受けました。今もまだ見つからないままだと思いますが、改めて、ご冥福をお祈りしたいと思います。さて、岡野さんの事業の中に完熟堆肥プロジェクトがあります。私も生ごみの堆肥化に一生懸命取り組んでいますので、岡野さんのことは郡上市環境課の方から以前より伺っており、ぜひお会いしてお話を聞きたいと思っておりました。本日もお越しいただき、とても楽しみにしています。長良川カンパニーさんのコンポストは、コミュニティの中で多くの人に関わりながら、完熟した良質な堆肥を作る取り組みです。一方で私が勤めているのは、各家庭で生ごみを堆肥化し、それを家庭で使い循環させる方法です。完熟度や品質という点では違いがあるかもしれませんが、生ごみを燃えるごみに出さず、循環させる仕組みを作りたいという熱い思いは同じだと感じています。岡野さんは、白鳥中学校でコミュニティコンポストを使った完熟堆肥づくりの授業も実践されています。子どもたちが各家庭の残飯を持ち寄り、学校で一次発酵、二次発酵を行う体験授業です。私も孫を中学校へ送ったときに、少し拝見させていただきました。中学校はグリーン球場の跡地に建てられていますので、当時の球場のベンチがそのまま残っており、コンクリートで囲まれたその場所が、堆肥の発酵場所として使われています。「これは本当に良い場所だな」と思いました。私も年に一度、大中小学校で段ボールコンポストの授業をさせていただいています。体験まで行うのはなかなか難しいのですが、段ボールコンポストでできた堆肥を学校の畑で使ってもらっています。子どもの頃の経験や体験は、本当に大切だと思っています。こうした取り組みが広がり、何万トンもの生ごみが減るような未来を想像すると、とても胸が躍ります。これからもその未来を思い描きながら、活動を続けていきたいと思っています。

■大和例会（外来卓話）

長良川カンパニー 岡野春樹様

松森さんからお話をいただいて、とても楽しみにしてきました。本日はよろしくお願い致します。

最初にお土産として資料と手ぬぐいをお持ちしました。、僕たちが移



住して一番最初にした仕事でもあります。自分たちが郡上の水や文化が好きすぎて、朝鮮半島から伊勢湾までの水と文化の流れをさんざん長良川流域に教えていただいて、現代の曼陀羅のような手ぬぐいを作らざるを得ないという事で、1年半かけて石川県側や朝鮮半島にいる友人に話を聞いて、旅をしながら作った手ぬぐいです。

私はホラ貝を吹きます。祖父が三重県津市の山奥で、37代続く川上山若宮八幡宮の宮司の家系です。祖父が神社に伝わるホラ貝をずっと吹いていて、その音色で僕は育ちました。嬉しいこと、遠くから来てくれたお客さんと出会った時に、ホラ貝を吹いていました。現在102歳ですが、死ぬ前に僕に託してくれないかと言って、生前の形見として譲り受けました。いま栗巢で吹いています。

私は大和町牧の公民館横にゲストハウスという、大和町が持っている賃貸の平屋があり、家族で住まわせていただいています。

私は東京の広告会社でバリバリ働いていて、移住せざるを得なかった理由が夜の川に連れていただいた事だったんです。本当に冷たい川の中にウエットスーツを着て、地元の人たちと一緒に川に入り、自分は0匹でしたが、取って来たばかりの鮎をいただき話をしていると、東京でパソコンをいじって仕事をしていた時に感じられなかった“生きているな”という実感にあふれていました。オンラインで仕事ができる時代になって来た時に、東京の会議室にいる意味があるのかと思ってしまう、



郡上に通わせていただいた事もあり、妻と会社をお願いして、最初は電通会社の出向という形で大和町にやってきました。今は栗巢川で子供達も育ててもらったなと思っています。次男は堰堤から網で鮎を取れるようになりました。また3畝の田んぼから始めて、去年は1反7畝の田んぼを作ってきました。

私の祖父は歌人の折口信夫という民族学者の最後の内弟子として学んだ歌人です。彼が日本という言葉あまり言わず「この美しき火山列島は」という言葉で表現をしておりました。大人になって、郡上で色々な場所で踊りや川へ行って遊ぶだけじゃなく、色々な大学の先生たちと森や土の調査をしているうちに、祖父の言っていた言葉の意味が段々分かってきました。世界中に11万枚ほどの大きなプレートがありますが、そのうちの4枚がひしめき合って、その上を列島が隆起しています。私が先日知った知識ですが、深い日本海溝と活火山が何故並行しているのか、プレートに沈み込む所から水蒸気がマントルで温められて世界でも30%位の沈み込み型活火山が続いています。私は今まで理解していませんでした。何故これほどまでにあちこちで素晴らしい水が沸いているのか、列島が隆起して出来ていることと、そこに活火山が何度も何度も噴火して土が降り積もる、私たちの足元は水を通れる隙間だらけだと分かります。

そこに世界の平均降水量の2倍の雨が降りそそぐと、隙間に雨がしみ込んでいくという事が分かります。日本は本当に恵まれていて、車で1時間も行けば、かなりの水量が湧き出ている源流大国だと分かります。日本の川のマップをみるとかなり沢山の川があります。私たちは郡上の水を研究していますが、かなりの水量がある事が分かります。我々移住者はこの白山信仰ないし、先人たちが守り続けてきた恩恵にあずかり続けているわけです。

そうすると祖父が言っていた「この美しき火山列島は」が、私の言葉では「この美しき源流大国は」に変わり、僕らはこれだけの水の流れを感じられる、どれだけ実感し恩恵を受け、ある意味利用して生きることが出来るだろうかと思います。

郡上の皆さんがそれぞれの支流をととも大事にしています。なぜ人は源流に旅をするのか？人が巡礼に旅をしていた場所があり、私はそれを“ケガレを落とすため”と言っています。どう生きていこうかと考えた方々が、源流部に旅にきて、豊かな水に身を浸して命が回復し、自分がやりたい事に気付いて帰って行った。我々はそのような場所に住まわせていただいているんだと思います。



ここで自己紹介をさせていただきます。平成元年ドイツ生まれで2歳で帰ってきました。会社は電通に入社し、11年務めました。3年前に独立し、長良川カンパニーという会社と、さとのば大学の副学長もしております。先程も話しましたように、郡上の川で命が救われるような経験を沢山してきました。広告会社でどういう仕事をしていたかという、パブリックプロデューサーだったので、地方創生という言葉を日本中に広げるための戦略立案や、色々な企業の新規事業を作ろう！というような仕事ばかりしていました。そうい

うことに伴走していると気づくことがあります。どこまで人生掛けてやりたい仕事として、新しい物作りに
いっているんだろ？大企業の人たちが新規事業を行って、少しマーケティングしたり、取り組んでいて、う
まく行かなかったら”駄目だったね”で辞めたりする場面を沢山遭遇していました。もっと伴走すること
なぜ強引にいかないんだろうと思った時に、その大企業の上層部の人たちを次から次に源流の川に引きずり
こんでいきました。そうすると会議室では話さなかった“こういう仕事をしたかった”“何でこの会社に入
ったか”など、川に入った後や火の前だとやたらに語りだすことに気がきました。みんな無理やり作ろうと
して、自分が本当に作りたいのか気付く訳です。郡上のような場所で、川に浸りながら自分を取り戻す
時間を持ったらいいのではないかと考えていきました。

かつて石徹白の集落にいた御師の方々の生活を調べれば調べるほど羨ましく、春と秋は暮らしに精を出し、
夏は聖地へ来る旅人を誘い、冬は全国各地に営業の旅をしていて、現代において彼らのように暮らす喜び、
旅をする喜び、旅に誘う喜び、三位一体で感じられる、現代御師集落のような物が作れないか、先ず会社を
立ち上げようと作ったのが長良川カンパニーです。

いま少子高齢化で中世には起きていなかった色々な課題がおきています、川の水温が上がってきて鮎が済み
にくくなってきました。かつての御師と違うのは、風土を守る責任が今徐々に出てきたと思います。だから
こそ僕らは源流から、どうやったら人と自然が共に再生していけるのか、という事を事業にしていこうとい
う事で、郡上内外の色々な人にお世話になりながら、事業を作ってきました。都市部の企業の人が、勤務時
間に森や川でちゃんと遊べるのか徹底的に研究しまして、“あなたたちは遊びに来るんじゃない、自ら社員
の総合性を解説しに来るのです。”という事を言ったんです。今では年間 200 人位、会社の研修などで、来
てもらうことに成功しました。

研修でどのような事をしているか話したいと思います。長良川流域に
3 日間で5ヶ所の川に入ってもらいます。1 日目は前谷川、2 日目は八
幡の吉田川の中流、3 日目は明宝スキー場の手前の源流の森で、川の湧
き出しを見てもらい、4 日目は八幡町の飛び込み場所等の文化を見ても
らって、最期に栗巣川に帰ってきて、いかに大人が遊んできた川が守ら
れているのか等説明したりします。3 日間5ヶ所の川に入り、自然界の
流域構造、流れについて学び、自ら自分自身のキャリアの流れについ
て考えるという事を編み出しまして、最初は眉間にしわを寄せてきて
いた人が、柔らかな顔をして帰って行きます。

これが結構面白いです。調査していくと、源流というのは都市部の
人は、1 点から川が始まっている所かもしれません。調べてみると川
底はほぼ湧水が湧いています。護岸工事がされていなければ、ほぼ美
味しい水が湧いているというような話をします。川は実は支流が支え
ているという話もします。

長良川を調べていくと、冷たい支流が合流する度に冷えて流れているという事が温度で分かります。つま
り長良川は結構白鳥辺りから水温が夏場は高くなります。そこに次々と支流が合流する度に温度がガツと冷
えて流れていきます。長良川という川は、冷えていくからこそ鮎が上流から下流まで色々な場所で住める、
本当に命を長らえながら流れている、それが長良川という事に気付くわけです。

都市部の人にこのようなデータを見せると、すぐ頭で考えようとするので、そんなことはさせません。ちゃ
んと川につけながら”冷たいでしょ”“という話をしながら流れて行ってもらいます。実際、この流れって、
あなたと一緒にでしょ。人類ほとんどの生き物は水がないと生きていけない。

自己紹介の時、肩書しか話さず、名前は何処いった！となるわけです。自己紹介をする時、肩書を話すの
は辞めませんか？いまここで出会ったあなたは奇跡のような状態で会えたのですから、森の中で流れを感じ
ながら自己紹介をしたりします。

何故人事研修で、川に入ることを OK してもらえたかという、川に入った時、神経がどうなるかデー
タを取りました。川に入ると人は覚醒するというデータで説明できるので、“遊んでいるんじゃない、自律神
経の覚醒だ”と言って川に入ってもらいます。2泊3日のツアーですが、なんと1社1名辺り 35 万円を払っ
てくれる時代になりました。これは朗報です。郡上は日本でラフティングの仕事とかありましたが、先輩の
水口さんが「もうラフティングだけじゃ、食っていけなくなってきた」と話されました。これからは川や土
地の文化を勉強した事を大人向けに提供していく。こちらが学べば学ぶほど、企業が付加価値として感じて
くれるような、そういった研修をしていく時代だとおっしゃってくださいました。我々2泊3日の研修を7



回行くと2千万円ほどの売り上げがある事もありました。これが嬉しかったです。ラフティングを40歳過ぎても体力的にもやれないが、土地の事を勉強して収益にもなるという事です。大企業など企業研修として取り入れてくれているようになりました。

資料をお配りした、さとのば大学の事です。最近では恵まれた時代ですね。我々の大学時代とはまるで違う大学があちこちにあります。彼らは校舎がなく基本オンラインです。地域に滞在してくれるんです。大和町の牧に金子先生がみえますが、今年1年、金子先生の家には3人さとのば大学の生徒が下宿しています。1反7畝の田んぼを午前中は講義を受けて、昼からずっと”楽しい”と言って田んぼに入っているの、とてもきれいです。3人の学生が1年滞在することにインパクトはすごいです。今年も来ますし、武蔵野大学の学生が小川、石徹白、大和の3か所に1ヶ月滞在します。また台湾は地方創生とSDGsを国を挙げて学生に学ばせなくては行けなくて、台湾政府がお金を出して2ヶ月間、学生を送り込んでくれる時代になりました。僕らの時と随分変わりました。



何故そのような動きになったかという、世界中でどう言われているのは、経済成長の限界、数字だけの成長だけを見ることの限界、これからは質感、どのように生きていく実感を感じられるか、勉強とか仕事など、かつては大学に行って勉強していたが、今はAIが仕事をしてくれるようになりました。これからはどれだけ自分が生きる実感に満ち溢れて、彼と仕事がしたいと思ってもらえるか、人当たりの良さですとか、土地に根差して生きる力、それをカタカナで言うとウェルビーイングと言ったりします。それが世界的に問われていく時代と言われています。世界中の企業が2027年基準が完成して、2029年からは自分たちの会社は人のウェルビーイングに対して、いくら投資しているのかというのを開示しなくては行けない時代になってきました。

多くの企業はSDGsのその先のSWGsだと言って、ウェルビーイングを高めるかという事を重点に入り始めています。ですから色々な企業や学生たちが郡上に集まってくるわけです。

長良川は、本州で唯一本流にダムがない奇跡の川と言われています。世界中が日本グランドイメージ調査を行っていて、海外のお金を持った人たちが日本に何を求めているかという調査があります。自然の景観とアウトドア、スピリチュアリティはちょっと信仰心というか、日本人には聞きなれない言葉ですが、自然をありがたく思う心で、世界中のラグジュアリー層が日本に求めていることのトップの二つなんです。郡上は明るい未来しか僕には見えません。

僕はこの水はどこから来ているのか、白山の恵みだという事を白山信仰と言わなくてもいいんです。子供たちが川で遊ぶ風景を、手を取って取り戻していくか。それは現代版の白山信仰かなと思って、特に大和・白鳥の方には、これから出来ればこれだけの巡礼の人たちが多くなってきたので、白山の古道をどのように復活させていくか、僕は大変興味があります。ご清聴ありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 旭美香君

佐藤備子君 岡野さん、本日はよろしくお願ひします。中東情勢に不安な毎日です。燃料、給油お早めに！

松森正和君 岡野君、本日はありがとう！

和田良一君 岡野様、卓話楽しみにしています。今日、配達で鳩ヶ谷まで行ってきました。御母衣ダムの水の少ないのにはビックリしました。雪も少ないです。

旭美香君 岡野様、本日はありがとうございました。娘が岡野さんと同じ慶應SFCですので、どんな話をされるか楽しみにしております。

井俣愛美君 岡野さん、本日はよろしく尾根議します。楽しみにしてきました。

同文 大村太郎君、寺田澄男君、藤代昇君、小島正則君、野島征夫君、石徹白秀也君、畑中知昭君
山口里美君、清水英志君、杉山賢君、養島正人君、有井弥生君

■行事予定

- 4月1日 次期会長方針発表
- 4月8日 花見例会
- 4月11日 ラーニングセミナー

■出席報告

出席委員会 養島正人君

回数	会員数	出席者	休会者	補正	出席率
2225回	30名	21名		2名	76.67%
2226回	30名	17名	1名		56.67%